

日本語のとりたて詞「だけ」と 中国語の副詞「就」との比較 — 限定の意味を中心に —

趙 小 鳳

0. 問題のありか

日本語の「だけ」は「とりたて詞」と呼ばれ、限定の意味を表わすものとされる。一方、中国語の「就」は限定副詞として扱われ(注 1)、限定の意味を表わすものとされている。が、両者は同じ限定の意味を表わすものとされても、限定できる品詞、文成分と、限定できる範囲などは必ずしも同じではない。本稿は以下の三点を以って比較したい。

- 1) 限定できる品詞
- 2) 限定できる文成分
- 3) 限定範囲と限定方向

1. 限定できる品詞

日本語の「だけ」と中国語の「就」は、名詞、動詞、形容詞、助動詞、助詞(中国語では「介詞」)、副詞といった品詞を限定できるかを、次の例文によって検証してみたい。

- | | | |
|--------------------|---------------------------------------|----------|
| (1) A 谁给女儿自行车了? | 誰が自分の娘に自転車を買いましたか。 | |
| B 就田中。 | 田中さんだけです。 | [名詞] |
| (2) A 你买什么样的自行车? | どんな自転車を買いますか。 | |
| B 我不买, 就看看。 | 買わないけど、ちょっと見るだけです。 | [動詞] |
| (3) A 你饿吗? | お腹が空いていますか。 | |
| B 不, 我现在就冷, 不饿也不累。 | いいえ、今は寒いだけで、お腹も空いていないし、
疲れてもいないです。 | [形容詞] |
| (4) A 你想买这种自行车吗? | このタイプの自転車を買いたいですか。 | |
| B 不想买, 我就想看看。 | いいえ、ちょっと見たいだけです。 | [助動詞] |
| (5) A 你都给谁买自行车? | 誰と誰に自転車を買ってあげるのですか。 | |
| B 就给我女儿。 | 娘にだけです。 | [助詞(介詞)] |
| (6) 我就稍微吃一点儿。 | ちょっとだけ食べます。 | [副詞] |

上記の例文から、「だけ」と「就」は例文(1)の名詞、(2)の動詞、(3)の形容詞、(4)の助動詞、(5)の助詞(中国語では「介詞」)、(6)の副詞をそれぞれ限定できることが分かる。

日本語の「だけ」はその分布がかなり自由だと言われるが(注 2)、中国語の「就」にも

同じような特徴があると言える。ただ、「だけ」は各種の品詞に後接するが、「就」は各種の品詞に前接するという違いがある。

2. 限定できる文成分

「だけ」と「就」は、主語、述語、目的語、連体修飾語（中国語では「定语」）、連用修飾語（中国語では「状語」）といった主要な文成分を限定できるかをこの節で見てみたい。

2.1 日本語の「だけ」

- | | |
|---|--------------|
| (7) <u>私だけが</u> 昨日、酒を飲みました。 | [主語] |
| (8) 私は昨日、パーティーで酒を <u>飲んだだけ</u> でした。 | [述語] |
| (9) 私は昨日、パーティーで <u>酒だけ</u> を飲みました。 | [目的語] |
| (10) 私は昨日、 <u>田中君とだけ</u> 酒を飲みました。 | [連用修飾語(同伴者)] |
| (11) 私はいつも <u>飲み屋でだけ</u> 酒を飲みます。 | [連用修飾語(場所)] |
| (12) 私は昨日、パーティーで <u>ちょっとだけ</u> 酒を飲みました。 | [連用修飾語(副詞)] |
| (13) *私は昨日、パーティーで <u>おいしいだけ</u> の酒を飲みました。 | [連体修飾語] |

「だけ」は例文(7)の主語、(8)の述語、(9)の目的語、(10)(11)(12)の連用修飾語を限定できるが、(13)の形容詞による連体修飾語を限定しにくいようである。が、形容詞による連体修飾語をすべて限定できないということでもないようである。例えば、

(14) おいしいだけの酒から健康に良い酒へ

のような使い方もある。その他にも、形容詞による連体修飾が数多く見られる。では、なぜ例文(13)のような用法は使えないのか。この疑問を持って、本稿は「形容詞だけのN(名詞)」について調査を行った。その結果、以下の傾向を示せるのではないかと考える。

1) 「形容詞だけのN」が含まれる文では否定の形(以下の二重下線)を伴うケースが多い。

(15) 消費者は、単に安いだけのモノを求めているのではありません。(読売新聞 2003. 10. 11)

(16) ディーゼル車は環境にやさしいだけのニッチな車ではなく、パフォーマンスも高い実用的な車だということを示したい。(日経新聞 2005. 1. 23)

2) 「形容詞だけのN」が含まれる文では否定の形を伴わない場合でも、否定的ニュアンス(以下の二重下線)を有するケースが多い。

- (17) ただ、子どもには、空気を読むのが上手(うま)いだけの大人になるより、のびのびした人になって欲しい。(朝日新聞 be on Saturday 2006. 8. 5)
- (18) 車でしか行けず、ただ売り場面積が広いだけの大型店は、若者には受けても、高齢者には利用しづらい。(読売新聞 1999. 12. 28)

以上の二点を踏まえ、結論として「形容詞だけのN」という場合の「だけ」は、「それだけでは不十分だ、満足できない」というニュアンスが強いうえ、他の内容との比較が目立つと言える。

では、例文(13)では、「形容詞だけのN」が含まれる文には否定の要素、また「それだけでは不十分だ」というニュアンス、更に他の内容との比較などが見られないため、使用しにくいのではないかと考えられる。この問題は意味論と統語論の両方に深く関わる問題で、更なる検討については別稿を期したい。しかし、全体から見れば、形容詞による連体修飾語を限定することができると言えよう。一方、連体詞による連体修飾語を限定することができない。

- (19) *あんなだけ映画は二度と見たくない。

「だけ」は連体詞「こんな」「そんな」「あんな」のような連体詞による連体修飾語を限定できない。

上記の例文から、日本語のとりたて詞「だけ」は連体詞による連体修飾語を限定できないのを除いて、主語、述語、目的語、連用修飾語、形容詞による連体修飾語を限定できるということが分かる。

2.2 中国語の「就」

例文(7)～(13)と同じ意味を表わす中国語の例文で検証してみることにする。

- | | |
|---------------------------------|-----------------|
| (20) <u>就</u> 我昨天喝了酒。 | [主語] |
| (21) 我昨天在宴会上 <u>就</u> 喝了酒。 | [述語] |
| (22) *我昨天跟田中喝了 <u>就</u> 酒。 | [目的語] |
| (23) 我昨天 <u>就跟</u> 田中在酒馆喝了酒。 | [連用修飾語(介詞-同伴者)] |
| (24) 我平时 <u>就在</u> 酒馆喝酒。 | [連用修飾語(介詞-場所)] |
| (25) 我昨天在宴会上 <u>就</u> 稍微喝了一点儿酒。 | [連用修飾語(副詞)] |
| (26) *我昨天在宴会上喝了 <u>就好</u> 喝的酒。 | [連体修飾語(形容詞)] |

中国語では、「就」は例文(20)の主語、(21)の述語、(23)(24)(25)の連用修飾語を限定できるが、(22)の目的語と(26)の形容詞による連体修飾語を限定できない。なぜ(22)の目

的語と(26)の連体修飾語を限定できないのか。その理由は、「就」の文中における位置に係するものと見る。基本的には、「就」は述語を境目に、述語とそれより前の成分を限定する場合、限定される成分のすぐ前に置くことができるが、述語より後の成分を限定する場合は、限定される成分のすぐ前に置くことができないという原則があると本稿は考える。この原則に即して考えれば、(22)と(26)の「就」は境目となる述語「喝」より後の成分を限定しようとするため、非文になってしまうのである。しかし、(22)と(26)の「就」を述語の前に移動させると、

(27) 我昨天跟田中就喝了酒。

(28) 我昨天在宴会上就喝了好喝的酒。

のように、二つの文とも成立するようになる。更にこの原則を証明するため、次の例文も参考されたい。

(29) *他喝了一杯就好喝的酒, 不好喝的酒他根本没喝。

(30) 就好喝的酒他喝了一杯, 不好喝的酒他根本没喝。

(彼は美味しい酒だけ一杯飲んだが、美味しくない酒は全然飲まなかった)

(31) *我听懂了就简单的话。

(32) 就简单的话我听懂了。

(簡単な話だけは聞き取れた)

のように、本来目的語の位置にある成分を述語より前の位置に移動させれば、文が成立するようになるのである。

ここでは、関連問題として限定による多義的意味の発生の問題を取り上げたい。

(33) 我昨天在宴会上就喝了酒。

これは前掲した例文(21)である。この例文中の「就」は述語を限定すると述べたが、実はこの文は二義的意味を実現するものである。それは「私は昨日、パーティーで酒を飲んだだけだった」のように、動詞を限定する場合と、「私は昨日、パーティーで酒だけ飲んだ」のように、目的語を限定する場合がある。では、どういう場合にこのような二義的意味が発生するか、またどのようにその意味の違いを区別するかについて考えたい。

まず、この問題は、「就」が動詞の直前か、動詞を修飾する副詞などの直前に位置する場合に発生することが例文(33)(25)で分かる。他の成分を限定する場合には発生しないことも(20)(23)(24)から確認できる。では、どのように二つの意味を区別するのか。これについては口語と文章語に分けて検討したい。

(34) A 我昨天在宴会上就喝了酒。(口語)

(私は昨日、パーティーで酒を飲んだだけだった)

B 我昨天在宴会上就喝了酒，没吃菜。(文章語)

(私は昨日、パーティーで酒を飲んだだけで、料理を食べなかった)

(35) A 我昨天在宴会上就喝了酒。(口語)

(私は昨日、パーティーで酒だけを飲んだ)

B 我昨天在宴会上就喝了酒，没喝茶。(文章語)

(私は昨日、パーティーで酒だけを飲んで、お茶を飲まなかった)

例文(34)の述語「喝」を限定するには、Aの口語表現では、「喝」に音声の強勢(二重下線)を置けば良い。Bの文章表現では、後文の内容によって、限定関係を明確にさせ、前文の「喝」を限定することができる。では、どのように後文の内容によって、前文の限定内容を明確にさせることができるか。まず、限定の定義を確認しておきたい。限定とは、「ある前提のもとに形成される集合の要素の中から、当該の要素を選び出し、同時に、他の要素を非該当要素として否定する」(注3)。この定義に従って説明すれば、(34)Bの後文では、非該当要素は動詞の「吃」であるため、前文の当該要素は「吃」と同じ集合の要素「喝」になる。そこから、前文で「就」によって限定されるのは「喝」であることが言える。一方、(35)の目的語「酒」を限定するには、Aの口語表現では、「酒」に音声の強勢(二重下線)を置けば良い。Bの文章表現では、(34)Bと同じように、後文の「茶」が否定されることによって、前文の「酒」が限定されることになる。

以上の検証によって、中国語の限定副詞「就」は述語を境目に、述語及びその前の成分である主語、連用修飾語、連体修飾語を直接に限定できるが、述語より後の成分である目的語、連体修飾語を直接には限定することができないことが明らかになった。

3. 限定範囲と限定方向

限定範囲とは、とりたてて詞と限定副詞が限定できる範囲のことを指す。この限定範囲は限定方向を持つものである。つまり、とりたてて詞や限定副詞が自らの左側の要素を限定するか、それとも右側の要素を限定するかという区別がある。前者を「左方限定」と呼び、後者を「右方限定」と呼ぶことにする。更に、沼田善子 1986 (注4)の三種の「とりたてのスコープ」の分類を参考に次の分類を行いたい。つまり、「左方限定」には、すぐ左側の要素を限定する場合と、他の要素を飛び越して次か、またはその次の要素を限定する場合がある。前者を「左方直前限定」と呼び、後者を「左方超越限定」と呼ぶことにする。同様に、右方限定にも、「右方直後限定」と「右方超越限定」が存在すると考える。このことを次のように図示する。

	左方直前限定		右方直後限定
左方限定 {		右方限定 {	
	左方超越限定		右方超越限定

この分類を以って日本語の「だけ」と中国語の「就」の相違を検討してみたい。

3.1 日本語の「だけ」

- (36) 私だけが銀座に行きました。
 (37) 私は昨日だけ銀座に行きました。
 (38) 私は昨日、友達だけと銀座に行きました。
 (39) *だけ私が銀座に行きました。
 (40) *私はだけ昨日、銀座に行きました。
 (41) *私は昨日、だけ友達と銀座に行きました。

例文(36)(37)(38)のように、「だけ」は「左方限定」中の「左方直前限定」を実現するのが一般的である。(39)(40)(41)のように、「右方限定」を行う場合は成立しなくなる。

次に、「だけ」の「左方超越限定」について見てみたい。沼田 1986 の例文を引用する。

- (42) a. 昨日は<当の田中さん>と会えずに、<鈴木さん>と会えただけだった。
 b. 昨日は<当の田中さん>と会えずに、<鈴木さん>だけと会えた。

例文(42)a では、「だけ」は動詞「会えた」の直後に置かれていながら、「会えた」を飛び越して、「鈴木さん」を限定することから、本稿で言う「左方超越限定」を実現すると言える。一方、b では、「だけ」は「鈴木さん」の直後に置かれ、直接に「鈴木さん」を限定することから、本稿で言う「左方直前限定」を実現すると言える。日本語の「だけ」は中国語の「就」のように述語より後の成分のすぐ前に置けないという制限がないため、目的語の直後に置いたり、述語の直後に置いたりして比較的に自由である。

以上、日本語では、とりたてて詞「だけ」の限定方向は「左方限定」である。「右方限定」は存在しないと考える。更に「左方限定」中の「左方直前限定」と「左方超越限定」が存在するが、「右方限定」が存在しないため、「右方直後限定」も「右方超越限定」も存在しないことになる。

3.2 中国語の「就」

例文(36)～(38)と同じ意味を表わす中国語の例文を使うことにする。

- (43) 就我昨天去了銀座。
 (44) 我就昨天去了銀座。
 (45) 我昨天就跟朋友去了銀座。

中国語の「就」は述語より前の成分を限定する場合、基本的に「右方直後限定」を実現する。しかし、

- (46) 小王就能干这项工作。

のように、「就」が助動詞の直前に置かれる場合は二義的になる。その二義的意味は次の(47)と(48)で示す。

- (47) 小王就能干这项工作，其他的工作都干不了。(右方限定)
 (王さんはこの仕事しかやれず、他の仕事はすべてやれない)
 (48) 小王就能干这项工作，你何必找别人呢。(左方限定)
 (王さんでもこの仕事をやれるから、別に他の人にやってもらわなくていいじゃないか)

この現象については、2.2節で提示した限定の定義に従って説明したい。例文(47)では、非該当要素は後文の「其他的工作」であるため、当該要素は前文の「这项工作」であると推定できる。そのため、(47)の「就」はまず「右方限定」を実現するものと言える。また、「就」は限定される「这项工作」の直前に位置せず、「能干」を隔てて、「这项工作」を限定するため、「右方超越限定」を実現するものでもあると考える。

一方、(48)では、非該当要素は後文の「别人」であるため、当該要素は当然、前文の「小王」であると推定できる。「小王」は「就」の左側にあるため、(48)の「就」は「左方限定」を実現するものとする。なお、この場合は、「小王」は「就」のすぐ左側にあるため、「左方直前限定」でもあると言える。「左方超越限定」について、

- (49) 这项工作小王就能干。
 (この仕事は王さんでもやれる)

のように、「小王」の前に他の要素があっても、限定されるのは依然として「小王」であって、「小王」を飛び越して「这项工作」を限定することができない。そのため、中国語では「左方超越限定」を実現しないと考える。

では、例文(47)の「右方限定」と(48)の「左方限定」は意味的にいかなる違いをもたらすかを見てみたい。

- (47)の「这项工作」は唯一の要素で、その他の要素である「其他的工作」はすべて該当

しないという意味を表わす。一方、(48)の「小王」は唯一の要素ではなく、最低限の要素であることを表わし、この最低限の要素（小王）以上の要素（別人）は必要としないという意味である。(47)と(48)の限定における意味の違いを要約すると、次の通りである。

- 1) 「就」の右方限定は、当該要素が唯一の要素で、その他の要素は一切不適格である意味を表わす。
- 2) 「就」の左方限定は、当該要素が最低限の要素で、それ以上の要素は必要としない意味を表わす。

中国語では、限定副詞「就」の限定方向は「右方限定」と「左方限定」の双方向である。「左方限定」を行う場合は「左方直前限定」を実現し、「左方超越限定」は実現しない。一方、「右方限定」を行う場合は、「右方直後限定」と「右方超越限定」の両方を実現すると考える。

4. おわりに

本稿は、1) 限定できる品詞、2) 限定できる文成分、3) 限定範囲と限定方向の三つの節に分けて、日本語のとりたて詞「だけ」と中国語の限定副詞「就」が限定における相違について考察を行った。その結果は次の通りである。

- 1) 限定できる品詞については、

「だけ」と「就」は名詞、動詞、形容詞、助動詞、助詞（中国語では「介詞」）、副詞をそれぞれ限定できる。

- 2) 限定できる文成分については、

日本語では、「だけ」は連体詞による連体修飾語を限定できないのを除いて、主語、述語、目的語、連用修飾語、形容詞による連体修飾語を限定できる。

中国語では、「就」は述語を境目に、述語を含めてその前の成分である主語、連用修飾語、連体修飾語を直接に限定できるが、述語より後の成分である目的語、連体修飾語などを直接に限定することができない。

- 3) 限定範囲と限定方向については、

日本語では、「だけ」の限定方向は「左方限定」である。「右方限定」は存在しない。更に、「左方限定」中の「左方直前限定」と「左方超越限定」が存在するが、「右方限定」が存在しないため、「右方直後限定」も「右方超越限定」も存在しない。

中国語では、「就」の限定方向は「右方限定」と「左方限定」の双方向である。「左方限定」を行う場合は「左方直前限定」を実現し、「左方超越限定」は実現しない。一方、「右方限定」を行う場合は、「右方直後限定」と「右方超越限定」の両方を実現すると考える。

注

1. 具体的には徐傑・李英哲 1993、劉鑫民 1995、劉丹青・徐烈炯 1998 を参照されたい。
2. 沼田善子 1986 を参照されたい。

3. 安部朋世 1999 からの引用。
4. 沼田 1986 で取り上げた三種類のとりたてのスコープは以下の通りである。
 - I. 直前スコープ (Normal scope または N スコープ)
 - II. 後方移動スコープ (Backward または B スコープ)
 - III. 前方移動スコープ (Foreward または F スコープ)

参考文献

- ・安部朋世(1999)「ダケの位置と限定のあり方—名詞句ダケ文とダケダ文—」国立国語研究所『日本語科学 6』
- ・近藤泰弘(2003)「とりたての体系の歴史的变化」『日本語のとりたて—現代語と歴史的变化・地理的変異—』くろしお出版
- ・田子内健介・足立公也(2005)『右方移動と焦点化』研究社
- ・沼田善子(1986)「とりたて詞」『いわゆる日本語助詞の研究』凡人社
- ・沼田善子(2003)「現代語のとりたての体系」『日本語のとりたて—現代語と歴史的变化・地理的変異—』くろしお出版
- ・徐傑・李英哲(1993)「焦点和两个非线性语法范畴：“否定”“疑问”」中国語文 1993 第 2 期
- ・劉鑫民(1995)「焦点、焦点的分布和焦点化」寧夏大学学报 1995 第 7 期
- ・劉丹青・徐烈炯(1998)「焦点与背景，话题及汉语“连”字句」中国語文 1998 第 4 期
(東海大学特任講師)